脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.38



And

Network of Independent Experts – NIE

提出文書

Eva、ブルガリア市民、障害者[[1]](#footnote-1)　より

国連障害者権利委員会　宛

　この声明は、Network of Independent Experts - NIE（独立した専門家ネットワーク。ブルガリア拠点のNGO）に手書きの文書として提供された。この声明文は、バリデテイ財団（Validity Foundation）の支援を受け、NIEが翻訳したものである。この声明文には、編集上の変更（翻訳を除く）は一切されていない。最後の段落は、著者の口頭での要望により、後から追加されたものである。

　私の名前はEva、46歳、私はブルガリアの都市ソフィアの出身で、今もそこに住んでいます。病気が確定したのは22歳の時で、言いたいことが沢山あります。病気は、妄想型統合失調症です。昔、食べ物を買うか、薬局で病気の薬を買うかの選択を迫られたことがあります。私は食べ物を選びました。あのときは精神的な困難な状況になってしまい、今でも大好きな人を殺害してしまいました。彼の魂が安らかでありますように。このような病気の治療薬は、簡単に手に入り、無料でなければならないと思います。そうすれば、誰も私が昔犯した罪を繰り返すことがないからです。

　障害者は、社会から常に悪いイメージで見られていました。健常児（healthy children）の母親は、相手が子どもであろうと大人であろうと、障害者とコミュニケーションをとることを子どもに禁じます。

　精神疾患は、最も恥ずべきものであり、全く受け入れがたいものと考えられています。病人の家族や親族は、その病気を隠し、誰かに知られたら恥ずかしいと思うのです。このような社会の態度や恐怖心は、マス情報の提供を通じて積極的、直接的、広範囲に変えていく必要があると思うのです。

　私は、障害者のためだけでなく、子ども連れの母親のためにも、あらゆる場所にスロープを設置するべきだと考えています。

私は、労働能力が80％低下した障害認定（ТЕЛК）を受けています。私の病気は、少なくとも今のところ治療法がありません。私の障害認定は生涯つづくものでなければなりません。

　殺人に関しては21年前のことでしたが、近親者の強欲のせいで、現在、全権後見のケースとして訴えられています。3ヶ月経ちますが、まだ控訴審の判決を待っています。この裁判所は、私が21年間薬を飲むのを1日も欠かしたことがなく精神的に困難な状況に陥っていないのに、私の答弁に判決を下すことは非常に難しいと考えています。どうやら裁判所は、私が信用を失ったとも考えているようです。

また、たとえ障害者のための閉鎖的施設であったとしても、能力に応じて働くことが許され、労働に対して賃金が支払われるべきだと思います。私は、雇用主が障害者を雇用するよう積極的に奨励すべきであると考えます。医療補助はもっと利用しやすく、無料であるべきです。特にブルガリアでは、医療スタッフは仕事をするようもっと奨励されるべきだと思います。

　さらに付け加えると、とても大事なことですが、私の意見では精神科病院に収容された人たちに対する仕事とその対価が保証されることが重要です。これは、私自身の経験から言っています。精神科病院およびあらゆる施設で、将来の仕事のための訓練ともいえる「職業療法」と呼ばれるものが行われています。しかし、このようなプログラムや活動に参加する人たちには、報酬が支払われません。そのせいで、人々は自分をゴミみたいに感じてしまうのです。たとえ少額の支払いでも、この感覚は変わり、人々は自分が社会の一部であり、いくらか尊敬に値する人間であると感じ始めるかもしれません。

**注：本投稿で提示された見解はEvaのものであり、Evaが協議プロセスに参加することを可能にした組織の意見を必ずしも反映するものではない。**

　　　　　　　　　　　（訳　2023年7月： 宮澤明音、尾上裕亮、岡本 明、佐藤久夫）

1. 著者は文章がとても個人的なため本名は明かさないことを望んでいる。 [↑](#footnote-ref-1)